

＜稲＞ イネシガラセンチュウ

1. 種子は発生していないほ場から採種する。本病は主として種子伝染をするが、汚染苗による感染もあるので注意する。
2. 黒点米(目黒米)の原因はイネシガラセンチュウの他に、イネアザミウマやミナミキイロアザミウマでも発生する。
3. 種子消毒を行う。(種子消毒の項を参照)
4. 本場でイネシガラセンチュウが多発した場合は、黒点米防止のため、出穂期に薬剤を1～2回散布する。散布は出穂期をはずれると効果が落ちる。
5. 出穂期の薬剤散布はイネの開花時刻に当たる午前10時から午後2時までの間は避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン乳剤	I:1B	収穫21日前まで	2回以内	散布

＜稲＞ スクミンゴカイ

1. 水田及び小水路にいる貝は捕殺し卵塊はつぶす。貝は移動能力が高いため、地域ぐるみで捕殺作業に取り組む。
2. 水田への侵入防止：小水路に生息する貝が主に取水口から侵入するので、取水口になるべく細かい網を張る。
3. 冬期に水田を耕し、越冬期の死亡率を増加させる。
4. 貝を捕殺する場合は必ずゴム手袋をし、作業終了後は石鹸で手を洗う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジャンボたにしくん		収穫60日前まで	2回以内	散布
スクミンベイト3		発生時	-	散布
スクミン		収穫60日前まで	2回以内	散布又は無人航空機による散布

＜稲＞ イナゴ類

1. イナゴ類の水田への侵入は6月中旬頃から始まり、侵入初期には畦畔際に多い。7月中旬になるとほ場内密度は平均化する。
2. 7月上旬以降の20回振りすくい取りで100頭以上採集された場合、防除の必要がある。
3. 6月下旬から7月に散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
トレボン乳剤	I:3A	収穫14日前まで	3回以内	散布
トレボン粉剤DL	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
トレボン粒剤	I:3A	収穫21日前まで	3回以内	散布

＜稲＞ ツマグロコバエ

1. ミツバチを放飼している地域では、薬剤のミツバチへの影響を確認して剤の選択を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
エクシードフロアブル	I:4C	収穫7日前まで	3回以内	散布
スタークル液剤10	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
トレボンEW	I:3A	収穫14日前まで	3回以内	散布
トレボン乳剤	I:3A	収穫14日前まで	3回以内	散布
トレボン粉剤DL	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
なげこみトレボン	I:3A	5葉期以降(但し、収穫21日前まで)	3回以内	水田に水溶性容器のまま投げ入れる。

＜稲＞ ウンカ類

1. 薬剤はイネの株元に十分かかるように散布する。
2. セジロウンカ、トビイロウンカは梅雨前線の発達にともなって海外より飛来してくるので、年により飛来時期と飛来量が異なる。病害虫発生予察情報を参照する。
3. ミツバチを放飼している地域では、薬剤のミツバチへの影響を確認して剤の選択を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
エクシードフロアブル	I:4C	収穫7日前まで	3回以内	散布
エミリアフロアブル	I:4F	収穫7日前まで	2回以内	散布
キラップフロアブル	I:2B	収穫14日前まで	2回以内	散布
スタークル液剤10	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
スタークル豆つぶ	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
トレボンEW	I:3A	収穫14日前まで	3回以内	散布
トレボン乳剤	I:3A	収穫14日前まで	3回以内	散布
トレボン粉剤DL	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
トレボン粒剤	I:3A	収穫21日前まで	3回以内	散布
なげこみトレボン	I:3A	5葉期以降(但し、収穫21日前まで)	3回以内	水田に水溶性容器のまま投げ入れる。

＜稲＞ カメムシ類

1. 斑点米の原因となるカメムシ類には、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシ、イネカメムシなどがある。近年、カスミカメ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）やミナミアオカメムシの発生が増加傾向にある。
2. 穂揃期～乳熟期に防除を行う。
3. 出穂期10日前以降の畦畔の除草は、カメムシ類の本田への侵入を助長する恐れがあるため、行わない。
4. イネクロカメムシに対しては、落水してから薬剤を株元に十分かかるように散布する。越冬成虫は畦畔に近いところに集まりやすいので、ここを重点的に防除する。
5. イネクロカメムシの越冬成虫期（7月上～中旬）と若齢幼虫期（8月上～中旬）の2回散布する。
6. ミツバチを放飼している地域では、薬剤のミツバチへの影響を確認して剤の選択を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン粒剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
エクシードフロアブル	I:4C	収穫7日前まで	3回以内	散布
キラップフロアブル	I:2B	収穫14日前まで	2回以内	散布
スタークル液剤10	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
スタークル豆つぶ	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
スタークル粒剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
スミチオン乳剤	I:1B	収穫21日前まで	2回以内	散布
スミチオン粉剤3DL	I:1B	収穫21日前まで	2回以内(但し、出穂前は1回)	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
ダントツ粒剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
トレボンEW	I:3A	収穫14日前まで	3回以内	散布
トレボン乳剤	I:3A	収穫14日前まで	3回以内	散布
キラップ粒剤	I:2B	収穫14日前まで	2回以内	湛水散布

#### <稲> イネトロオムシ

1. 幼虫期散布の場合、晴天日の散布は効果が高い。
2. トレボン粒剤は、5月下旬～6月上旬の幼虫ふ化初期に水面施用する。その他の剤は5月下旬～6月中旬の幼虫ふ化期に散布する。
3. ミツバチを放飼している地域では、薬剤のミツバチへの影響を確認して剤の選択を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン粉剤3DL	I:1B	収穫21日前まで	2回以内(但し、出穂前は1回)	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
トレボン乳剤	I:3A	収穫14日前まで	3回以内	散布
トレボン粉剤DL	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
トレボン粒剤	I:3A	収穫21日前まで	3回以内	散布

#### <稲> イネミスヅウムシ

1. イネミスヅウムシ成虫は畦畔、山林等の雑草地で越冬し、田植後に本田に飛込むが、田植時期や気象条件などによって飛込時期が異なる。田植時期が早い水田(5月中～下旬)に成虫の飛込みが多く、被害もやすい。
2. 根腐れするような水田では成虫の被害がやすいので間断かんがいなどを行い、根を健全に保つようにする。
3. 箱施用を行わなかった場合は田植10日後に、また箱施用後に越冬成虫の寄生が多い場合には田植10～20日後に水面施用剤を施用する。
4. 湛水直播栽培における防除は種後2週間前後に水面施用剤を水面施用する。越冬成虫の多い場合は更に10日後に同様に水面施用する。
5. 水面施用後はカケ流しを避けて、7日間湛水状態にしておく。
6. 幼虫対象の2回目の防除は、成虫密度が株当たり0.5頭以上を目安とする。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アルバリン粒剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
スタークル粒剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布

#### <稲> ニカメイチュウ

1. ニカメイチュウの第1世代発蛾最盛期 6月中～下旬 第2世代発蛾最盛期 8月中～下旬
2. 防除時期は予察灯またはフェロモントラップによる初蛾最盛期から決定する。
3. 第1世代の発蛾最盛期が田植期以前の時は田植後15日前後に散布し、田植後の時は最盛期後15日前後に散布する。
4. 第2世代が、発蛾量が多く発蛾期間が長期にわたる場合は2回散布が必要である。
5. 散布剤は発蛾最盛期5～7日後に葉鞘に十分かかるように散布する。
6. 粒剤は、発蛾最盛期頃に施用する。
7. 粒剤の水面施用の場合は水深を5～10cmとし、手まき又は散粒機で均一散布し、7日以上湛水しておく。この間に田面があらわれる程度に減水した場合は短時間に補水する。漏水のはげしい水田では使用しない。施用後2週間以内に雨等で溢水した時は再度施用するか茎葉散布剤を散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン粉剤3DL	I:1B	収穫21日前まで	2回以内(但し、出穂前は1回)	散布
ロムダンゾル	I:18	収穫21日前まで	2回以内	散布

#### <稲> ニカメイチュウ第1世代

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン乳剤	I:1B	収穫21日前まで	2回以内	散布

#### <稲> ニカメイチュウ第2世代

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン乳剤	I:1B	収穫21日前まで	2回以内	散布

#### <稲> コブノメイガ

1. コブノメイガの防除時期は若齢幼虫期で8月中旬頃の場合が多いが、年により異なるので発生予察情報を参考にする。
2. ミツバチを放飼している地域では、薬剤のミツバチへの影響を確認して剤の選択を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン粉剤3DL	I:1B	収穫21日前まで	2回以内(但し、出穂前は1回)	散布
トレボン乳剤	I:3A	収穫14日前まで	3回以内	散布
トレボン粉剤DL	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
ロムダンゾル	I:18	収穫21日前まで	2回以内	散布

#### <稲> イネツトムシ

1. イネツトムシの常習発生地では初発生に注意し、適期に防除する。
2. 8月上旬の若齢幼虫期に散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン乳剤	I:1B	収穫21日前まで	2回以内	散布
トレボン粉剤DL	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
ロムダンゾル	I:18	収穫21日前まで	2回以内	散布

<稲> フタオビコヤガ

1. イネアオムシとも呼ばれる。
2. 年3、4回発生し、7～8月に幼虫の食害が多い。
3. 葉身に白いカスリ模様の食害がある時期（若齢幼虫期）が防除適期。葉緑の階段状食害時期（3齢以降）では防除適期を過ぎている。
4. 防除適期の期間は1週間程度と短いため、初期被害をいち早く見つけ防除することが重要。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン乳剤	I:1B	収穫21日前まで	2回以内	散布
トレボン粉剤DL	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布

<稲> 稲こうじ病

1. 稲こうじ病は窒素多肥によって生育が遅延した場合に発生が多くなるので、発生地では多肥、特に遅効きにならないようにする。
2. 銅剤は出穂期近くに散布すると、特に葉害が出やすいので、出穂10日前以降の使用は避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
Zボルドー粉剤DL	F:M01(M)	出穂10日前まで	-	散布
オリブライト250G	F:11(C3)	出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回	散布
ドイツボルドーA	F:M01(M)	出穂10日前まで	-	散布
トップジンMブル	F:1(B1)	収穫14日前まで	3回以内	散布
トライフロアブル	F:U16(U)	収穫14日前まで	2回以内	散布
ブラシンフロアブル	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布
ブラシン粉剤DL	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布
フジワン粒剤	F:6(F2)	出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内	湛水散布
モンガリット粒剤	F:3(G1)	収穫30日前まで	2回以内	湛水散布

<稲> いもち病

1. 葉いもちに対する薬剤散布は手おくれにならないように注意すること。
2. 激発が予想されるときには出穂期を中心にして、散布間隔を短くして回数を増やす。
3. 防除は穂ばらみ期～穂ぞろい期に必ず予防的に行う。防除時期に降雨が続くときは、天候の回復を待つて適期を失するよりも、粉剤を使用して適期に雨間散布をするほうが効果がある。
4. 粒剤は予防効果が高いので発病の前に予防的に水面施用する。処理は水田を3～5cmくらい湛水し、均一に散布する。処理後は少なくとも7日湛水状態に保ち水田の水が流出しないように注意し、漏水田や水もちの悪いほ場では使用しない。
5. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
6. 本県では、MBI-D剤（箱施用剤の項も含む）耐性いもち病菌が発生している。また、近年、他県ではQoI剤（箱施用剤の項も含む）に対する薬剤耐性いもち病菌が発生し問題となっている。これらの剤への耐性菌発生が疑われる場合には、使用を一旦中止し他剤に変更する（参考資料「殺菌剤使用ガイドライン」の項を参照）。
7. 奨励品種の抵抗性程度は以下の通りである。  
 （葉いもち） 極強・・・なつしずか 中・・・五百万石、にじのきらめき、葵美人 やや弱・・・ひとめぼれ、コシヒカリ、きぬむすめ、あいちのかおりSBL、にこまる、令和誉富士 弱・・・峰の雪もち  
 （穂いもち） 強・・・なつしずか やや強・・・にじのきらめき、あいちのかおりSBL 中・・・きぬむすめ やや弱・・・ひとめぼれ、五百万石、にこまる、峰の雪もち 弱・・・コシヒカリ
8. 種子消毒剤については、種子消毒の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリゼメート粒剤	F:P02(P2)	葉いもちには初発の10日前～初発時、穂いもちには出穂3～4週間前(但し、収穫14日前まで)	2回以内	散布
オリブライト250G	F:11(C3)	出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回	散布
カスミン液剤	F:24(D3)	穂揃期まで	2回以内	散布
コラトップ1キロ粒剤12	F:16.1(I1)	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内	散布
ダブルカットフロアブル	F:24(D3) F:16.1(I1)	穂揃期まで	2回以内	散布
トライフロアブル	F:U16(U)	収穫14日前まで	2回以内	散布
ブラシンフロアブル	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布
ブラシン粉剤DL	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布
ゴウケツ粒剤	F:16.3(I3)	出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	湛水散布
サンプラス粒剤	F:16.3(I3)	出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	湛水散布
フジワン粒剤	F:6(F2)	葉いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内	湛水散布
ルーチン粒剤	F:P03(P3)	収穫30日前まで	2回以内	湛水散布

<稲> ごま葉枯病

1. 耕種改善は次による。ア) 深耕、麦わらや堆きゅう肥の施用、客土などを行い 地方の増進に努める。イ) 窒素質肥料は生育後期に切れないように分施し、カリ肥料を増施、けい酸肥料を施用する。
2. 出穂15日以降の散布は、防除効果が低い。
3. 夏期に高温が続く場合には穂枯れが発生するため、薬剤散布により予防する。
4. 種子消毒剤については、種子消毒の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ブラシンフロアブル	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布
ブラシン粉剤DL	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布

<稲> 小粒菌核病

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フジワン粒剤	F:6(F2)	出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	2回以内	湛水散布

<稲> 白葉枯病

1. 白葉枯病の常発地では抵抗性の弱い品種は避ける。
2. 奨励品種の抵抗性程度は以下の通りである。  
やや強：あいちのかおりSBL 中：コシヒカリ、にこまる やや弱：ひとめぼれ、なつしずか、にじのきらめき、きぬむすめ、峰の雪もち 弱：五百万石

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリゼメート粒剤	F:P02(P2)	移植活着後及び出穂3～4週間前(但し、収穫14日前まで)	2回以内	散布
ゴウケツ粒剤	F:16.3(I3)	出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	湛水散布
サンブラス粒剤	F:16.3(I3)	出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	湛水散布

<稲> 内穎褐変病

1. 内穎褐変病はエルビニア・ハービコーラ菌という細菌の一種によって起こる。
2. 籾の内穎だけが褐変するこのような籾からは、茶米・死米など不完全米が発生することが多い。
3. この内穎褐変は、早期栽培のコシヒカリなどで発生が多く、出穂数日後に発生する。早い時期ほど鮮明で、登熟が進むと衰退する。
4. ブラシフロアブルを使用するときは、穂ばらみ期と出穂期に5日間隔で2回散布すると効果が安定する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ブラシフロアブル	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布

<稲> 変色米(アルタナリア菌)

1. 健全な稲の生育を図るため、施肥、水管理など適切に行う。
2. 伝染源となる畦畔の雑草は早めに刈り取り、埋没又は焼却処分する。
3. 除草剤による枯死葉、黄化葉は菌の増殖源となるので注意する。
4. 罹病種子籾は第1次伝染病となるので種子消毒を徹底して健全育苗を行う。
5. 変色米は褐色米、紅変米などの総称。関与する菌としてカーブラリア菌、エピコッカム菌、アルタナリア菌などがある。発育適温は30℃前後と高温を好むので、夏期高温は本病の発生を助長する。
6. 出穂期～登熟期にかけて高温、乾燥などにより稲の抵抗力が低下すると発生しやすい。
7. 早期に落水すると根の機能が低下し発生しやすくなる。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ブラシフロアブル	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布

<稲> 変色米(エピコッカム菌)

1. 健全な稲の生育を図るため、施肥、水管理など適切に行う。
2. 伝染源となる畦畔の雑草は早めに刈り取り、埋没又は焼却処分する。除草剤による枯死葉、黄化葉は菌の増殖源となるので注意する。
3. 罹病種子籾は第1次伝染病となるので種子消毒を徹底して健全育苗を行う。
4. 変色米は褐色米、紅変米などの総称。関与する菌としてカーブラリア菌、エピコッカム菌、アルタナリア菌などがある。発育適温は30℃前後と高温を好むので、夏期高温は本病の発生を助長する。
5. 出穂期～登熟期にかけて高温、乾燥などにより稲の抵抗力が低下すると発生しやすい。また、早期に落水すると根の機能が低下し発生しやすくなる。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ブラシフロアブル	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布
ブラシ粉剤DL	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布

<稲> 変色米(カーブラリア菌)

1. 健全な稲の生育を図るため、施肥、水管理など適切に行う。
2. 伝染源となる畦畔の雑草は早めに刈り取り、埋没又は焼却処分する。除草剤による枯死葉、黄化葉は菌の増殖源となるので注意する。
3. 罹病種子籾は第1次伝染病となるので種子消毒を徹底して健全育苗を行う。
4. 変色米は褐色米、紅変米などの総称。関与する菌としてカーブラリア菌、エピコッカム菌、アルタナリア菌などがある。発育適温は30℃前後と高温を好むので、夏期高温は本病の発生を助長する。
5. 出穂期～登熟期にかけて高温、乾燥などにより稲の抵抗力が低下すると発生しやすい。また、早期に落水すると根の機能が低下し発生しやすくなる。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ブラシフロアブル	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布
ブラシ粉剤DL	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布

<稲> 穂枯れ(ごま葉枯病菌)

1. 耕種改善は次による。ア) 深耕、麦わらや堆きゅう肥の施用、客土などを行い 地力の増進に努める。イ) 窒素質肥料は生育後期に切れないように分施し、カリ肥料を増施、けい酸肥料を施用する。
2. 出穂15日以降の散布は、防除効果が低い。
3. 夏期に高温が続く場合には穂枯れが発生するため、薬剤散布により予防する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリゼメート粒剤	F:P02(P2)	出穂3～4週間前(但し、収穫14日前まで)	2回以内	散布
オリブライト250G	F:11(C3)	出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回	散布
ブラシフロアブル	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布
モンガリット粒剤	F:3(G1)	収穫30日前まで	2回以内	湛水散布

**<稲> もみ枯細菌病**

1. 種子消毒剤については、種子消毒の項を参照。
2. 育苗時の出芽温度は高温ほど発病が多い。
3. 育苗は高温・多湿を避ける。特に被覆資材使用時等、育苗で高温多湿の条件では、本病による苗腐敗症の発生を助長しやすいので、高温多湿にならないように注意するとともに種子消毒及び育苗培土への薬剤混和防除の徹底を図る。
4. 育苗箱での多窒素や育苗床に粘土粒子を多く含んだ土壌を使用すると発病を助長する。
5. 苗立枯細菌病に対しても、採種、塩水選、浸種育苗の温度管理などを苗腐敗症の耕種的対策に準拠して行えば発病を軽減することができる。
6. 本田では、適正な栽植密度及び施肥に心掛け、発病を抑制する。本田での防除は発生後では効果がないので予防的に散布する。
7. ブラシンフロアブルを使用するときは、穂ばらみ期と出穂期に5日間隔で2回散布すると効果が安定する。
8. オリゼメート粒剤を箱施用した場合は移植活着後の施用を行わない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリゼメート粒剤	F:P02(P2)	移植活着後及び出穂3～4週間前(但し、収穫14日前まで)	2回以内	散布
バリダシン液剤5	F:U18(U)	収穫14日前まで	5回以内	散布
ブラシンフロアブル	F:U14(U)・F:16.1(I1)	収穫7日前まで	2回以内	散布
ゴウケツ粒剤	F:16.3(I3)	出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	湛水散布
サンプラス粒剤	F:16.3(I3)	出穂5日前まで(但し、収穫30日前まで)	1回	湛水散布

**<稲> 紋枯病**

1. 早期、早植栽培に発生が多い。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリブライト250G	F:11(C3)	出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)	1回	散布
バリダシン液剤5	F:U18(U)	収穫14日前まで	5回以内	散布
モンカットフロアブル	F:7(C2)	収穫14日前まで	4回以内	散布
リンパー粒剤	F:7(C2)	収穫30日前まで	2回以内	散布
モンカット粒剤	F:7(C2)	出穂30～10日前(但し、収穫14日前まで)	4回以内	湛水散布
モンガリット粒剤	F:3(G1)	収穫30日前まで	2回以内	湛水散布

**<水稲> コフノメイガ**

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
チェーンアップ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布

**<水稲> フタオビコヤガ**

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
チェーンアップ顆粒水和剤	I:11A	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	散布